

第99回 ほほえみ 開催

6月21日(水)第99回 ほほえみを開催しました。
13名の方が参加してくれました。

今回、ミニ勉強会を開催する予定でしたが、次回に延期になってしまいました。勉強会のために来場いただいた方もおられ、大変申し訳ございませんでした。次回は開催しますので、是非ご参加下さい。

次回のほほえみは、7/19(水)14時から16時まで
北館3階 大会議室での開催となります



【がんサロン事務局】

『見極める力を』

(がん体験記)

ほほえみの皆さん こんにちは♪

「ほほえみ」の大きな役割は、同じ病気の方や家族の声を聴けること。検査や治療への不安は、同じ仲間の体験談を聴くことで軽くなり、がんと付き合い方を前向きにさせてくれる気がします。

父が胃がんだと知ったのは、30数年前の事。インターネットも無い時代。私達、家族には限られた情報源しかありませんでした。

ネット世界の欠点は、途轍もない情報の中に、医学的根拠のないもの・偏りのあるものが混在していること。情報集めの良し悪しは、医師の監修の有無に注意し、様々なことに振り回されず、疑問は、担当医や看護師に率直に伝えること。

がん患者の体験談は、個人の体験で、その内容が自分自身に100%当てはまることは稀。体験談から、「ひとりじゃない」「がんばろう」と感じる事が大切です。

得た情報を生かし本人を中心とした治療を選ぶこと・家族や信頼できる人達と、情報を共有化すること・周囲の事に振り回されず、自らの選択が正しいのか、冷静かつ客観的な視点が必要です。

顔や姿形が違うように、同じがんでも、病状や治療、がんと共存の仕方も人それぞれ。同病ゆえ、気持ちがかち合えるとは限りません。同じ病の方や家族さんと良好な関係を築くことも大切ですが、無理は禁物です。お互いに心地良い距離感が必要です。

父ががんに罹ったと聞いて、周りが様々なことを言ってきました。頼りない母は、混乱しがちでした。何処其処の病院が良い・更なる治療法があるなど、素人のアドバイスは時に遠くに住む私を困惑させました。中には、健康食品や宗教の勧誘もありました。

その多くは、悪気がないので日本人特有の「断れない」に悩まされ、主治医より、素人の意見を優先しがちな母に苛立ちも覚えました。心配りには感謝し、有益な情報を見極める力を着けたいものです。

もうすぐ紫陽花の季節、花言葉は「家族の結びつき」です。(和歌山県/女性/胃がん/家族)

ほほえみの皆さんのこと、遠く関西より祈っています♪

